



新潟県中越地震現地 調査緊急報告会開催

開催日時：平成16年11月24日(水) 13:30～16:00

場所：センチュリーロイヤルホテル 20階 白鳥の間

プログラム：構造物調査グループ報告
岸 徳光(室蘭工業大学)、
伊藤雄二(構研エンジニアリング)
地盤・斜面調査グループ報告
川村信人(北海道大学)、金 秀俊(ドーコン)

主催：(財)北海道道路管理技術センター

後援：(独)北海道開発土木研究所、
(社)日本技術士会 北海道支部



10月23日午後5時56分に新潟県中越地方において、マグニチュード6.8、震源深さ13km、最大震度7の地震が発生した。この地震は、兵庫県南部地震よりも大きく我が国で発生した地震の中でも最大級のものであった。このようなことから、(財)北海道道路管理技術センターでは実際の被災現場において、主として道路に関連した被災状況を調査取り纏め、地震が多く発生している北海道における今後の道路管理技術に資することを目的に、上記後援のもとに下記のようなメンバーからなる調査団を現地に派遣した。

調査団の構成：

構造グループ(11月13日～16日)：伊藤雄二(構研エンジニアリング)、小幡卓司(北海道大学)、岸 徳光(室蘭工業大学)、工藤浩史(ドーコン)、西 弘明(北海道開発土木研究所)、古内 仁(北海道大学)。

地盤・斜面Aグループ(11月12日～14日)：日外勝仁(北海道開発土木研究所)、金 秀俊(ドーコン)、田近 淳(北海道立地質研究所)。

地盤・斜面Bグループ(11月12日～15日)：川村信人(北海道大学)、熊谷宏之(北海道道路管理技術センター)、武

田 覚(ドーコン)、齊藤和夫(基礎地盤コンサルタンツ)、長瀬真央(開発工営社)。

報告会では、調査団長を務めた岸氏より、今回の地震と兵庫県南部地震や昨年発生した十勝沖地震における観測波形の比較を交えた地震規模の概要説明と挨拶の後、4氏による報告が行われた。

構造物調査グループからは、道路橋、鉄道橋を中心に調査した結果、上部工の被害は見られないことや、被害が橋脚や支承部に集中しているものの地震規模に比較して被害が小さいことが報告された。また、地盤・斜面グループからは、多くの斜面崩壊事例が報告された。特に、自家用車で通行中の親子3人が被災し2人が亡くなった妙見白岩の県道(旧国道17号線)崩壊現場に関しては、現場斜面が植生で覆われており、現場斜面に道路防災上の大きな問題点・危険性があったとは思われないが、このような斜面でも震度7クラスの直下型地震では大規模な崩壊を起こし、多大な被害をもたらす可能性があること等が報告された。

当日は、行政機関、コンサルタント、建設会社等から150名以上が出席し、熱心に調査報告に聞き入っていた。



新幹線魚野川橋梁



妙見白岩の県道(旧国道17号線)崩壊現場